



北の国から

'83~'89

倉本 聰

倉本 聰

北の国から

'83～'89

理論社

読者へ 倉本聡

シナリオというものをお読みになったことがありますか？

この本は、テレビドラマのシナリオです。

これまでシナリオは俳優や監督やテレビ・映画の関係者だけが読む、出版されない文学でした。だから普通の小説を読むのとはちょっと違って最初とまどうかもしれません。でもその戸惑いは最初のうちだけです。

シナリオは読みながらその情景や主人公の表情や悲しみや喜びを、みなさんの頭のスクリーンに描きやすいように書かれています。単に「間」と書かれている時間の中で主人公が何を考えているのか。「誰々の顔」と書かれているところで登場人物がどんな顔をするのか。そういうことを読みながら空想し、頭に映像を創っていくことで、みなさんは自分の創造力の中の監督や俳優になることができます。そしてもしかしたら皆さんの創造力は、実際にこのシナリオを元にしてできたドラマより、より深いより高い一つのドラマを頭の中に創ってしまうかもしれません。

シナリオを読むことに馴れてみてください。

そこに皆さんはただ読むだけではない、創るよろこびをも同時に持てるでしょう。

装画 倉本聰
装帧 守先正

もくじ

北の国から '83 冬 23

北の国から '84 夏 91

北の国から '87 初恋 153

北の国から '89 帰郷 223

北の国から
'83冬

宮前雪子

手紙を書いている。

雪子の声「純君、螢ちゃん、お元気ですか。あれからもう一年半になりますね。富良野のみんなは元気でしょうか。昨日、突然お父さんとクマさんが見え、本当にびっくりしてしまいました。あれからのことをいっばいきました」

ジングルベルがしのびこむ。

喫茶店

雪子と五郎、クマが逢っている。

雪子の声「中畑木材が火事で焼けたこと。初めてきてびっくりしました。おぼさんが働いたあの工場も、今は新しくなったんですね。本当に何も知らないで、お見舞一ついえなかったこと。ショックを受けています。でも——」

雪子

雪子の声「それに負けないくらいおどろいたのは、お父さんとクマさんが十一月からこっちに出稼ぎにみえてたことです。そうして純君と螢ちゃんがたった二人で暮らして話。きっと二人とも大きくなったのね。大丈夫ですか？ 寒くないですか。恐くないですか。ごはんはちゃんと食べられていますか」

クリスマス・ツリー

雪子の声「お父さんたちとは昨日新宿で、おひるを一緒に別れました。お父さんたちは二十九日の夜行で富良野へ帰るのだとおっしゃってました。お正月をあなたたちと過ごせることが、何より愉しみだとおっしゃっていました」

デパート・玩具売場

その賑わい（クリスマスセール）。

雪子の声「今東京はクリスマスセール。どこへ行ってもジングルベルです」

五郎、ケチな買物を売り場へ運びつつ、黒山の人だかりにわりこんでのぞく。

雪子の声「あなたたちに小さなプレゼントを、物だけはい

っぱいある東京から送ります。メリー・クリスマス！
そして、ハッピー・ニューイヤー！」
五郎の視線。

コンピュータゲームに目の色変えている子どもたち。
そして大人たち。

口をあけ、ぼんやり見ている五郎。

熱中している子どもたち。

その輝いた顔、顔、顔。

圧倒的なジングルベル。

コンピュータの上に出現し消える都会の文明。

突然、それらがスッと遠のき。

モニターの画面を風音がかげぬける。

そしてその画面に雪が降りだす。

雪原

その中の一本道。

地吹雪が激しく横切って過ぎる。

その道を――

かなたからボツンとソリを引きやってくる純と螢。

二人は地吹雪と降る雪に抗し、食料を積んだソリを無

言で押してくる。

雪煙激しく舞い、二人うつむいてやり過ごす。

音楽――テーマ曲、静かにイン。

また、歩きだす二人。

激しく降る雪と地吹雪の中、二人、少しずつ近づいて

くる。

タイトル流れて。

1

丸太小屋（以下、家と書く）表

どこかで自動車のホーンが高く鳴る。二度。三度。

純「（とび出して）ハイ!! 今行きまーす!!」

同・中

純「（とびこんで）草太兄ちゃん迎えに来たゾッ!!」

螢「（二階から）今行くッ！ お兄ちゃん火の始末お願い

ッ

純「もう見たよッ!!」

螢「もう一度ちゃんと！ 指さし確認!!」

純「うるせえなもう！ 暖炉！（指さす）消したッ。ス

トープ（指さす）フタしたッ。――フタしてなかつ

た」

表

とび出す二人。

雪の道

二人走る。

雪原

二人走って草太の車へ乗る。

純「お待たせしましたッ」

螢「ごめんなさいッ」

純「アレ、時夫兄ちゃんも一緒に行ってくれるの？」

時夫、乱暴に車をスタート。

景色

フロントグラスに走る。

純の声「こないだお兄ちゃん探したんだよ。風力発電凍っ

ちゃってさア、電気なしですよここンとこ四日。中畑

のおじちゃんは山行ってるしさア、哀れな子どもが二

人で闇ン中――え？」

走る車内

螢、純をつついてる。

純、螢を見、螢の目くばせに前の二人を見る。

運転席の時夫と助手席の草太。